1933.9.11.

NO.8

日本プロレタリア音楽同盟ニュース

日本プロレタリア音楽同盟常任中央委員会書記局発行

大会準備に関する指令！

P.M常中委

わが同盟中央委員は来る十一月初旬、第三回全国大会を召集する。委員会は先に大会を七月中旬と決定し、準備委員会を任命し、準備活動を各支部支準に指令したのであるが、間もなく指導部に対する敵の集中的攻撃の為半途挫折した。ここに更めて再指令するものである。

日本帝国主義の反ソ侵略、帝国主義戦争が目睫に迫つてゐる。斗ふ二つの戦線は如何に備へつつあるか？　敵階級は、労働者農民に対する搾取と抑圧の徹底的強化（九三億軍事予算の賦課、政治的無権利、治安維持法改悪！）を以て、新たな攻撃に狂奔する。革命的組織を先頭とするプロレタリアート、貧農、進歩的インテリゲンチアは帝国主義戦争反対、反動支配反対、文化野蛮反対等の活動に於て、英雄的なる斗争力を以て、敵階級の攻撃を粉砕しつつある。（無数の反戦活動、殊に最近に於ては反戦大会が春以来澎湃たる自由擁護の為の斗争気分等々）

わが第三回大会は、この新たな状勢の発展を前にし、この歴史的時代に、我等如何に斗ふべきかの方針を過去一年四ヶ月の同盟活動の批判検討を基礎に大衆的斗論によつて決すべき任務を帯びて開かれる。

わが常中委は、本大会のこの重要性の把握に立脚して、各報告に基づく討論に於て次に掲げる数項目を中心的な討論課題として設定する。即ち

★第一に－而して他の全てに対して主導的に－経営内並に経営への突撃活動の強化。（経営内アヂ、プロ隊、及経営を目指す突撃活動を、同盟活動の基本に置く事）

★創造的活動の強化。（経営内活動との結合、政治的課題の透徹）

★アヂ、プロ活動（出版、公演、等々の意義の再認識。（その経営内活動に対する聯関）（之等については紙"プロレタリア音楽"を参照されたい。）

各支部支準は直ちに各班（又はサークル、グループ）に於て[illegible]（合唱、移動その他）に於て大衆討論を巻き起さねばならぬ。殊に総会を用意しつゝある東京支部に於ては、その総会の成果、又それに基く活動の盛り上りが大会に於ける討論に、重要なる基礎を提供すると云ふ意味で、之等の基本的諸項目に対する討論は、特に慎重に用意されねばならぬ。之等の討論は一応の討論として了つてはならない。討論の成果は刻々実践に移され、その上に更に批判検討が活発に行はれねばならぬ。即ち上記の基本的課題を中心とする日常活動の大会目指しての盛上げ、ここに大会準備の中心である。

経営内音楽サークル、アヂプロ隊、目標工場への突撃隊活動の実践、例の豊富なる創設、経営生活を基礎とした反戦歌の豊富なる創作、宣傳隊、ハーモニカ隊活動の旺盛化によるプロレタリア音楽の集中的アヂプロ、之等の豊富な実践的基礎の上に大会を迎へねばならぬ。

之等は一般なボリシェビーキ的な準備活動の過程に於て、同盟の現在の一時的弱まりに乗じて醗酵した右及び左への脱脱、特に右翼日和見主義的傾向の徹底的、容赦なき清掃を行ひ得るであらう。

かくして大会の成功的遂行は、敵階級の新たなる挑戦に対し、自若として応戦し得る実力をわが同盟に與へるであらう。而する近い過去に我等が示した如き、二三の中心メンバーが敵に奪はれる事によつて、同盟の殆んど全活動が停止すると云ふ恥ずべき状態から我々は脱脚し得るであらう。

全同盟員諸君！

青年的決意を以て大会準備に起上れ！！

★支部報告提出に就て

上述の方針を規準に各支部支準は、報告を作成し十月二十五日迄に本部宛送付の事。報告期間は二十二年七月十日より三十三年九月三十日まで

本部書記局は去る六月、大会の準備に着手した際、既に各支部支準に対して期日を定めて報告提出を指令したのであつたが、之を実行した支部支準は一つもなかつた。今度はこの無規律を繰返してはならぬ。

中央機関紙の発刊について

わが書記局は従来全同盟の間に同盟活動の状況を報告し且指導を傳達する為の機関としてプロレタリア音楽同盟ニュースを定期に発行して来た。併しながら我々が経営的基礎に大衆的活動を展開する為の新たな段階に立つてゐる現在この同盟員のみを対照とせるニュースでは不充分である事が明らかとなつた。我々は更に広汎な同盟の影響下に立てる同盟外大衆を対照とせる、[illegible]大衆組織の為の機関を必要とす[illegible]るものとして我々は近々十月中旬迄に中央機関紙（名称未定）を発刊する。同時にニュースの定期刊は廃され、従来の機関誌プロレタリア音楽は理論創造機関誌として明確に規定された機能を以て活動を續ける。

各支部支準は、新中央機関紙の配布網を確立、拡大を強力に準備すべきである。

新中央機関紙の為の

通信
作品（作曲作詩）
論説

募集

期日　九月末日

同盟財政確立に就て
全同盟員諸君に檄す！

同盟は数ヶ月の沈滞から脱出して今新たな生気ある活動に入らうとしてゐる。機関紙部は次々に編輯プランを立て、既に第三号編輯が了り、第四号が進行中である。出版部では「前哨の歌」第四号が出来上り第五号が出来つゝある。又レコード第四号吹込が計画されてゐる。又東京支部は総会を準備しつゝある。この様に活動の旺盛化と共に先づ必要なのが同盟活動のかゝりたる財政である。同盟本部には今数十円の金があるばかりだ。（四月以来の繰越金三百余で前哨の歌第四号が出来迄立では既に編輯が完了しプリントするばかりになつてゐる機関誌第五号も出せない状態だ。

第一に同盟費を完納せよ。各支部支準はその責任の下に本部費を完納せよ。同盟費は、同盟財政の基礎にならねばならぬ。

第二に、機関誌、前哨の歌の誌代完納。之等納入率は現在甚だ悪い。之等はそれぞれそれ自身の回収によつて仕事が進むのでなければ、到底定期刊行は續くものではない。のみならず、誌代を厳格に回収する事によつてのみ、出版物への正しい関心が揺き起こし得るものである。予め理解せよ。回収をルーズにした事など、バラまきはそれだけを紙屑にして捨てるものと全く同じだ。

第三に基金活動の旺盛化。八・一迄の二百円カンパの成果は整理の上近く発表するが成績は非常に悪い。特にサークルその他での大衆的な募集は、神奈川の若干の成果を除いては概ね不成績であつた。[illegible]員会は現在の財政状態から見てカンパの延長の止むを得ざる事を見極め新たな計画を立てゝゐる。各支部支準は即刻その活動に取かゝれ。

支部支準情勢

● 東京支部は総会を準備しつゝある！

現在東京支部は同盟員六〇、サークル数一〇、各専門音楽団はいづれも活動停止の状態にある。八・一反戦カンパニア、續く無産青年デーの諸カンパニアに際して東京支部は何等経営基礎とせる斗争を組織し得なかつた。打ち續く指導部への弾圧の強化と多くの同盟員の同盟活動への無関心は指導部の力を著しく弱めてゐる。最近[illegible]和泉を中心とせる友動指導部的ブロック（江東・江稍明瞭には結成されなかつたが）の先抜せんとし、或は一〇サークル（江東二、北部三、西南五）北部の三、江東の一、西南の二委員会が大分指導し得ざるにもかゝはらず自主的に活動をつゞけて居るのは、その具体的現はれである。

今東京支部には、全同盟員の新たな決意による過去一ケ年の斗争の正しい自己批判と、それによる決議、特に新指導部の結成の為の総会開催及びその諸決議のボルシェビーキ的実践が必要である。

支部委員会は総会に至る期間迄特に書記局を強化して総会の準備を進めつゝある。組織活動及び移動隊、ハーモニカ班の報告は既にプリントにかゝつた。

一般報[illegible]合唱隊財政の諸報告[illegible]支部や之等、準備活動を妨[illegible]る上に特に困難を生ずるのは最近納入率低下による財政難である。財政活動の強化は特に緊急である。

今一つの必要事は、永い同盟活動から離れた多くの同盟員を総会に近づける為の熱烈なアジ・プロ活動である。かくて東京支部の今后の発展如何は一に支部総会を成功的に遂行するか否かにある。断乎たる決意の下に支部委員会は総会を準備しつゝある。

一九三三、九、一二

東京支部執行委員会

● 他の各支部支準は東京支部に対し一メッセーヂを送れ！

● 他の支部支準は報告の提出が不活発な為、全然状勢が判明しない。

書記局が各支部支準に対し定期報告を要求するのは之で何回目であるか判らない。何故この様な無規律が数限りなく繰返されるのであらうか？本部機関の活動が一時の攻撃の為に一時停滞したからか？否全くナンセンスだ。その様な場合こそ報告の意義が、益々大きくなるのであることは、改めて説明するまでもあるまい。何故なら破壊されたベルトが、之れによつてのみ恢復され得るのだから。報告は単なる形式的お役目ではない。直ちに指導部へ[illegible]

てのみ地方支部支準に対する指導をなし得るのであり、その事を通じてのみ指導部の指導力は強化されるのだ。

支部支準執行部の同志諸君！
報告の規律をないがしろにしてはならない。指導部強化は実に諸君があらゆる点に於てボルシエビーキ的規律の厳正さを持し、その事によつて指導部を鞭撻[illegible]のみ可能なのだ。

特に従来比較的おくれてゐた神奈川の同志諸君！
最近二ケ月のルーズさを克服して規律の永久的確保を心掛けよう。

・出版部（編成替後）

⦿機関誌第三号印刷中

⦿前哨の歌第四号印刷完了
内容左記。同志よ堅く結べ。
ソヴエート青年同盟歌。
佛国青年同盟歌。
プロレタリア団結せよ。
自由ロシア讃歌。
笹刈り。

⦿前哨の歌の第五号及びレコード第四号の吹込計画中。

⦿出版部は仕事は次から次と山の如く計画し然もそれ等をボルシエビーキ的テンポで次々と之を遂行しつゝある。只、財政難と人手の不足が仕事を妨げてゐる。
出版部は全同盟員諸君が出版財政に関心を持ち、出版基金カンパが大衆的支持を受けるもら事を期待する。併して、少しでもプリントの技術ある人が、自ら進んで出版部に労力を提供せられん事を切に希望する。

⦿書記長同志原太郎は六月十五日から六十数日の拘禁後、元気で出て来た。

⦿組織部長同志秋本は一月初旬捕へられ、この暑さ中でなほ頑張つてゐる。
同志武岡を救援せよ！
我々の基金、ミヤタ花又等を大衆的におくらう。

⦿前組織部長福田上市ケ谷刑務所（内）に通信、差入を怠るな。
彼の獄中からの元気な通信が今度の機関誌に来てゐるぞ！

⦿機関誌部。

⦿第三号主内容（編輯完了、印刷中）
巻頭言大会を前にして。
大会の、よき準備諸動の為に！
原太郎
国際音楽会記（一九三二、十二、五）の報告、決議採擇。
経営及諸動強化の為の討論
多摩川ピクニックの記
東京移動音楽隊通信員
動員四百人神奈川、文化劇場通信員

創造的活動強化の為の討論
ニルクスの歌詞批判

⦿第四号主要内容（編輯中）
東京支部総会の成果
組織問題に関する論文
（神奈川支準提出の予定）
創造的方法、批評方法の問題（矢島二郎）
国際音楽会記報告
時評　若き音楽学生に与ふ（赤松良雄）
創作欄
晩秋の斗争歌二つ。
新作（原、吉原）

⦿我々は未だ[illegible]大衆的の編輯を実現し得てゐない。
どしどし討論に参加せよ。
日常諸活動の中から通信を送れ。
支部支準は職場の各班、各部隊に必ず一名の通信員を配置し定期通信を義務づけよ。
締切は毎月十五日。

声明

知泉勇太郎ヲ除名ス

わが同盟常中委は前同盟員知泉勇太郎＝ペンネーム時田又ハ佐々ハの除名を声明する。理由は左記の通りである。

一、××地区××班に在つて支部執行部の透徹を故意に遮断し、のみならず班員に対し威嚇的言辞を以てその班を、わが組織から切断しやうとした。

二、同盟員××及××等を訪問して指導部に対するデマを吹聴し、且同盟員××その他を動かして反同盟的組織結成を企図した。

三、同盟東京支部の中堅分子××に対し、何の根底なく、プロバカートルの疑あり、との中傷を指導部に提出した。

四、之等の各項に就て指導部は色々な形式に於て警告を発し、その反省を促したに拘らず、徒らに糊塗的言辞を弄するのみで、自己批判の片影をも見せない為めに常中委は遂に彼に対する査問会を召集した。然るに彼は〃除名される事が判りきつてゐる様な査問会に出席する馬鹿はない〃と公言し、査問会への出席を拒み、遂に脱退届を提出した。加ふるに其の末尾に〃脱退の上は如何なる事ありともP、Mとは一切無関係に有之候間為念申添候〃と云ふが如き脅迫的文句を附加した。

右の通り除名の上は彼の今後の

〔四段の続き〕
一切の行動、言辞に就ては、わが同盟は責任を負はぬものである。
右声明す

一九三三、八、二〇、日本プロレタリア音楽同盟常任中央執行委員会

佐野鍋山三田村等の裏切りに際して声明す

全国の同志諸君!!

吾が日本プロレタリア音楽同盟は、天制に屈服し敵の無条件的支持の下に、公然と発表された佐野、鍋山、三田村、高橋、中尾等一連のプロバカートルの破廉恥なる裏切りに対し、無限の憎悪と断乎たる決意を以て此処に吾々の態度を声明する。

先きに人民大衆に飢餓と貧困と隷属を強要し、同志岩田、上田、小林始め[illegible]に存する革命的前衛を虐殺した天制テロルは、自己の危機の激化と其の崩壊の阻止のため満州の野に於て開始した帝国主義強盗戦争の強行のため佐野、鍋山、三田村等を自己の手先となし所謂転向が「共同被告に告ぐる書」なる支離滅裂の理論をデッチ上げさせて革命化した人民大衆をすこしでも長く奴隷の鎖につなぎ止めて置かうと企んでゐるのだ。

同志諸君!!

彼等一連のプロバカートルはプロレタリアートの前衛の名の下に革命的昂揚の過程にある人民大衆にプロレタリアートの国際組織の否定、帝国主義戦争謳歌、天制への隷属を恥知らずにも叫んでゐるのである。

同志諸君!!

吾々は、斯かる破廉恥なる裏切りに対して徹底的に反対し、パンと仕事と自由のための人民革命のトップとなり、帝国主義戦争に反対し、流血と搾取と飢餓とを齎らす天制絶対主義に反対し、平和と自由と、搾取なき社会の実現のために文化戦線に於ける音楽の一分野に於て決死の斗争を展開せんとするものである。

一九三三、九、一一

コップ、日本プロレタリア音楽同盟
常任中央委員会